

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	林 明照教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Akiteru Hayashi
作成者（著者）	荻野, 晶弘
公開者	東邦大学医学会
発行日	2024.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 71(1). p.13 13.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2023_053
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD36205413

林 明照教授送別の辞

荻野 晶弘

東邦大学医療センター大森病院形成外科

令和6年3月31日をもちまして、林明照教授が定年退職されます。林先生は昭和58年（1983年）に東邦大学医学部を卒業、東邦大学大森病院で研修後、昭和60年に東邦大学医学部外科学第2講座に入局されました。当時は外科学第2講座内に形成外科研究班があり、慶應義塾大学形成外科から戻られた丸山優講師（当時、後に形成外科学講座初代教授）が主任として診療に当たられていました。林先生は平成元年（1989年）に形成外科研究室の独立開設と同時に形成外科研究室助手となり、本格的に形成外科の道に進まれました。その後、平成5年に形成外科学講座が充足した年に形成外科学講座講師に昇任されました。以降、形成外科の医局長として長きにわたり医局運営に尽力されてきました。私（荻野）が形成外科学講座に入局した平成11年当時も形成外科医局長をされており、いつも医局で医局長業務など日々忙しそうにされていたのを今でも覚えております。

平成14年に東邦大学医学部附属佐倉病院形成外科に診療部長として赴任され、平成19年に病院教授、平成24年に佐倉病院形成外科学講座教授に就任され、佐倉病院では院長補佐や診療録管理室長、褥瘡対策委員会委員長、高難度新規医療管理室室長などの要職を兼任され、佐倉病院の運営と発展に貢献されました。

令和2年に大西清教授が退任されたのちは、東邦大学医学部形成外科学講座の主任教授として、大橋病院形成外科診療部長と東邦大学医学部形成外科先端治療学講座（寄付講座B）責任者を兼任され、形成外科学講座教育コーディネーターとして3病院1講座のもと大森・大橋病院での診療にも加わることで形成外科学講座の発展に尽力されてきました。

学会活動においては、日本形成外科学会や日本顔面神経学会をはじめ関連学会において評議員や各種委員会委員長など数々の学会役職を務められてきました。複数の学会で機関誌編集に携わり、令和5年からは米国形成外科学会機関誌のEditorial Boardに加わる等、国内外の形成外科学の

教育・研究の発展に力を注いでこられました。令和4年には第45回日本顔面神経学会を主催され、関連領域・診療科との交流にも尽力されました。

林先生の学術面での活躍としては、平成6年に柴田奨学助成金を獲得され、平成18年には東邦医学会賞を、平成28年には日本形成外科学会学術奨励賞を受賞されております。林先生といえば顔面神経麻痺患者に対する笑いの再建のspecialistとして有名です。顔面神経完全麻痺に対する神経血管柄付き遊離大腿二頭筋短頭移植による動的再建術や、島状側頭筋移行術などの術式を開発、発展させてきました。会長として主催された第45回日本顔面神経学会は、初の試みとして第31回日本聴神経腫瘍研究会と合同開催として、東邦大学医学部がある東京都大田区の産業プラザPioで開催されました。コロナ禍（第7波）にもかかわらず多くの方に現地参加を頂き、盛会裡に終了することができました。

林先生は手術室では厳しさもありましたが、もともと温厚な性格であり、手術中はゆったりとした空気感で丁寧な手術をされてきました。助手として手術に参加する若手Drにとってはとても勉強になったことと思います。学生時代はバドミントン部に所属し、教授になられてからはバドミントン部の顧問もされてきました。ありがたいことに林先生の退任後は私（荻野）がバドミントン部の顧問を引き継ぐようにご指名いただきました。林先生の後任として恥じないようにバドミントン部の学生と仲良く交流していきたいと思っています。

長年にわたり東邦大学形成外科学講座ならびに附属3病院、日本形成外科学会、日本顔面神経学会に多大な貢献を残され、医局員の育成指導に尽力してこられた林明照教授のご退任にあたり、東邦大学形成外科学講座を代表して心から深謝いたします。本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。林先生には今後とも大森病院、大橋病院、佐倉病院の診療におけるご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。